

## P1-012

### 中学生の生活習慣病予防健診結果と食事状況の関連

古川 照美、谷川 涼子

青森県立保健大学

#### 【目的】

心血管疾患は小児期から徐々に進行し、成人期以降の発症やそれに伴う死亡率が高いことが報告されている。小児期から動脈硬化促進の危険因子である肥満、高血圧、高血糖、脂質異常を予防するために、子どもの健康状態と生活習慣、食事状況の関連について明らかにし、適切な対策を講じる必要がある。本研究では生活習慣病予防を意図した健診を実施し、その結果と日頃の食事状況の関連を明らかにし、子どもの頃からの生活習慣病予防対策の示唆を得ることを目的とした。

#### 【方法】

2018年4月～5月に青森県内の3つの自治体において、中学生を対象に調査を行った。健診項目として身長、体重、体脂肪率、SBp、DBp、LDL-C、TG、AST、ALT、HbA1c、生活習慣は、朝食欠食、睡眠時間、運動時間についてであった。さらに、食事状況については簡易型自記式食事歴法質問票BDHQ15yを用いた。中学1年生から3年生の425人を解析対象とした。健診項目と各栄養素の関連を確認し、性別に、健診結果の有所見と食事状況から食品や栄養素量を推定し比較した。その後、生活習慣項目を共変量として投入した多変量解析を実施した。なお本研究実施の際に、対象者に対し口頭及び文書で説明し、文書による同意を得た。また本研究は倫理委員会の承認を受けて実施した。

#### 【結果】

有所見について肥満、高血圧、HbA1c、TGでは性別で有意差はみられなかった。LDL-Cは女子に、肝機能は男子に有所見者が多かった。朝食欠食者にLDL-C有所見者が多かった。TGの有所見者は睡眠時間が短かった。男子では血圧の所見とビタミンK、肝機能と脂質、ビタミンD、HbA1cとカリウムに関連が認められた。女子では血圧とビタミンC、葉酸、 $\alpha$ カロテン、 $\beta$ カロテン、HbA1cと食物繊維、多価不飽和脂肪酸、N-3系およびN-6系脂肪酸、ビタミンKに関連が認められた。

#### 【結論】

性別に違いは認められたものの、健診結果と食事状況からの栄養素との関連が示唆された。自記式食事歴法による限界はあるものの健診の事後の保健指導の際には、この時期の成長に見合った食事内容について確認しながら、生活習慣と健康状態を捉え支援する必要があると思われる。